

令和7年度

好学通信 (シラバス)

1年生 (63期生)

三綱領・五科目
敬愛 好学 自主
志操は高く、品格ある青年学生に
易にたづなず学道に専心せよ
共励切磋和して同ずるなかれ
自主自律 責任と実感を
積極敢活自ら運命を開拓せよ



鹿児島県立鹿児島中央高等学校



教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	現代の国語	2	共通	一斉	1	高等学校 現代の国語 (第一学習社)	新版意味から学ぶ頻出漢字3000 (第一学習社)

目標	国語を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成し、他者との関わりの中で伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。					
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい		考查等
	4月～6月	①	「生きもの」として生きる(中村桂子)	筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 主張と論拠、個別と一般化など、本文で扱われる情報と情報との関係を理解する。		①前期中間考查
			水の東西(山崎正和)	東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 東西対比の根拠となるそれぞれの情報を展開の中心に置き、評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。		
	6月～8月	②	論理分析 「間」の感覚(高階秀爾)	文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 文章の論理を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめようとしている。		②前期末考查
			羅生門(芥川龍之介)	下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、下人の心理的变化について自分の意見や考えを論述する。 比喩などの修辞を理解する。		
	8月～10月	③	ものとことば(鈴木孝夫)	具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 文章の効果的な接続のしかたを理解する。		10月実力考查
			論理分析 AIは哲学できるか(森岡正博)	文章を分析的に読み、仮説を積み上げて結論を導く論理の展開について理解する。 帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。		
	10月～12月	④	学校新聞の記事内容を検討する	情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたを理解し、活用する。 文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。		③④後期中間考查
			不均等な時間(内山節)	具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 既習の評論と粘り強く読み比べ、積極的に持続可能な社会に関する意見文を書くこととしている。		
	12月～3月	⑤	城の崎にて(志賀直哉)	作中に示された死生観について考えを深め、自分の意見や考えを論述する。 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。		1月実力考查
			ロビンソンの人間と自然(村岡晋一)	「ロビンソン・クルーソー」を例として取り上げた筆者の意図を理解した上で、主張を把握する。 内容や構成を叙述を基に捉え、学習課題に従って要旨をまとめようとしている。		
		⑥	情報の探索と選択	情報の信頼性や妥当性の吟味のしかたを理解する。 必要な情報を探す方法を理解する。		⑤学年末考查
定期考查	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。また、休日課題の問題集から出題し、日頃の学習の成果を問う。				
	予定範囲	前期中間	上記「学習内容」の①の範囲、休日課題の問題集、古典文法			
		前期末	上記「学習内容」の②の範囲、休日課題の問題集、古典文法			
		後期中間	上記「学習内容」の③・④の範囲、休日課題の問題集、古典文法			
学年末		上記「学習内容」の⑤の範囲、休日課題の問題集、古典文法				
実力考查	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。				
		10月	休日課題の問題集、古典文法 + 実力問題			
		1月	休日課題の問題集、古典文法 + 実力問題			
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
内容		国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけており、言語文化に親しみ、理解している。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価基準	定期考查 宿題(問題集)		定期考查 ペアワーク等 宿題(問題集)		ペアワーク等 宿題(問題集・作文等) 小テスト・リフレクションシート	
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	
学習の手引き		(1)予習…必ず語句の意味調べをする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書や全訳の丸写しではなく、考えて読み、聞き書く姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりと臨むこと。				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	言語文化	2	共通	一斉 少人数	1	高等学校 言語文化 (第一学習社)	古典常識も学べる新明解古典文法(尚文出版)・【基礎から解釈へ】漢文必携[五訂版](桐原書店)

学習計画	目標	国語を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成し、他者との関わりの中で伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	学習時期	学習内容		学習のねらい		考查等
	4月～6月	①	古 古文入門 『宇治拾遺物語』『児のそら寝』 「絵仏師良秀」	歴史的仮名遣いや古文の語彙・文法の基本を学び、古文に親しむ。 説話文学に親しみ、古文読解の基礎力を養う。		①前期中間考查
	6月～8月	漢	漢文入門	訓読のきまりを理解し、文章の内容を的確に読み取る。		
		漢	故事成語「漁夫之利」「狐借虎威」	格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。		
	8月～10月	②	古 歌物語 『伊勢物語』『東下り』 随筆 『徒然草』『丹波に出雲といふ所あり』	歌物語に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 想像力をはたかせながら、歌物語の世界を読み味わう。 作者の考えを叙述に即して的確に読み取る。 随筆に表れた作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		②前期末考查
		③	漢 故事成語「蛇足」 言語活動 故事成語の由来と意味を調べる	格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。		
	10月～12月	④	古 日記と随筆 『土佐日記』『門出』『帰京』 『枕草子』『九月ばかり』	作品の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。 作品に表れた作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		10月実力考查
			漢 史話「先從院始」	史話に描かれた情景や人物の心情などを、表現に即して読み味わう。		
	12月～3月	⑤	古 軍記物語 『平家物語』『木曾の最期』	作品に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。		③④後期中間考查
			古典の詩歌 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』	表現の特色に注意して和歌を読む。 和歌に表れたものの見方、感じ方に触れる。		
			現 詩歌「一つのメルヘン」「I was born」	詩独特の表現技法や構成などを理解し、作品に託されたメッセージを読み味わう。		
		⑥	漢 唐詩の世界 「春曉」「静夜思」「春望」	漢詩のきまりと表現の特色について学び、唐詩の世界に親しむ。		1月実力考查
			古 古典の詩歌 『奥の細道』『旅立ち』『平泉』	構成や展開を確かめながら文章を読み取る。 作品に込められた作者の思いを感じ取る。		
			漢 思想『論語』	孔子や孟子が理想としたものは何かを考える。		
	定期考查	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。また、休日課題の問題集から出題し、日頃の学習の成果を問う。			
予定範囲		前期中間	上記「学習内容」の①の範囲、休日課題の問題集、古典文法			
		前期末	上記「学習内容」の②の範囲、休日課題の問題集、古典文法			
		後期中間	上記「学習内容」の③・④の範囲、休日課題の問題集、古典文法			
		学年末	上記「学習内容」の⑤の範囲、休日課題の問題集、古典文法			
実力考查	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。				
		10月	休日課題の問題集、古典文法 + 実力問題			
		1月	休日課題の問題集、古典文法 + 実力問題			
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
内容		国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけており、言語文化に親しみ、理解している。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価基準	定期考查 宿題(問題集)		定期考查 ペアワーク等 宿題(問題集)		ペアワーク等 宿題(問題集・作文等)	
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	
学習の手引き		(1)予習…必ず語句の意味調べと全訳をする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書や全訳の丸写しではなく、考えて読み、聞き書く姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりとて臨むこと。				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地理 歴史	地理 総合	2	共通	一斉	1	『高等学校 新地理総合』(帝国書院) 『新詳高等地図』(帝国書院)	『新詳地理資料 COMPLETE』(帝国書院) 『サクシード地理』(啓隆社)

目標	社会的な事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい		考査等	
	4月	第1部 地図でとらえる世界 第1章 地図と地理情報システム	【知識・技能】(7) 方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。(4) 地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。(9) 現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。【思考力、判断力、表現力】(7) 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。(4) 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。		前期中間考査	
		5月	第2章 結びつきを深める現代世界			
	6月		第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	【知識】(7) 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。(4) 自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。【思考力、判断力、表現力】(7) 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。		
		7月	第2章 地球的課題と国際協力	【知識】(7) 地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。(4) 地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。【思考力、判断力、表現力】(7) 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。		
	8月		第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	【知識及び技能】(7) 地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。(4) 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。【思考力、判断力、表現力】(7) 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。		前期期末考査
		9月	1節 日本の自然環境			
	10月		2節 地震・津波と防災			10月実力考査
		11月	3節 火山災害と防災			
	12月		4節 気象災害と防災			
		1月	5節 自然災害への備え			
	2月		第2章 生活圏の調査と地域の展望	【知識】(7) 地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。【思考力、判断力、表現力】(7) 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。		後期中間考査
		3月				1月実力考査
定期考査	出題方針		・授業、教科書、その他課題などから出題する。 ・100満点 50分間の試験			学年末考査
	予定範囲	前期中間	第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結びつきを深める現代世界			
		前期末	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解 第2章 地球的課題と国際協力			
		後期中間	第3部 第1章 自然環境と防災			
観点別評価	内容	学年末	第3部 第2章 生活圏の調査と地域の展望			
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		地理に関わる諸事象に関して、生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		地理に関わる事象について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を獲得している。		地理的にかかわる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度で取り組んでいる。
		定期考査、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考査、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考査における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み
評価基準	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		
学習の手引き	①自宅では…【予習】教科書を読んで、学習内容を確認。【復習】オリジナルの学習ノートを作成し、学習内容を自分なりにまとめてみる。 ①授業では…他の生徒と意見を出し合ったり、要点をまとめ、それを発表したりする活動を通じて理解を深める。 ③日常的に…ニュースを見たり、新聞を読んだりする習慣を身につけて、自分の身の回りの出来事などに関心や疑問を持つようにする。					

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地理 歴史	歴史 総合	2	共通	一斉	1	『明解 歴史総合』(帝国書院)	『新詳 歴史総合』(浜島書店) 『新 歴史総合要点ノート』(啓隆社) 『新 歴史総合研究ノート』(啓隆社)

目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等	
	4月	A 歴史の扉 (1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料	【知識・技能】(ア) 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解すること。(イ) 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解すること。【思考力、判断力、表現力】(7) 近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、アで取り上げる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現すること。(イ) 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現すること。		
	5月	B 近代化と私たち (1) 近代化への問い (2) 結びつく世界と日本の開国	【知識・技能】(7) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。(イ) 18 世紀のアジアの経済と社会を理解すること。(ウ)、工業化と世界市場の形成を理解すること。【思考力、判断力、表現力】(7) 近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現すること。(イ) 18 世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(ウ) アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること。		
	6月	(3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題	【知識・技能】(7) 立憲体制と国民国家の形成を理解すること。(イ) 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解すること。(ウ) 現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解すること。【思考力、判断力、表現力】(7) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現すること。	前期中間考查	
	7月	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会	【知識・技能】(7) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。(イ) 第一次世界大戦前後の世界情勢や後の国際協調体制を理解すること。(ウ) 大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解すること。【思考力、判断力、表現力】(7) 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現すること。(イ) 第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(ウ) 第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	前期期末考查	
	8月	(3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	【知識・技能】(7) 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解すること。(イ) 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解すること。(ウ) 現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解すること。【思考力、判断力、表現力】(7) 各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(イ) 第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(ウ) 日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現すること。		
	9月				
	10月	D グローバル化と私たち (1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済	【知識・技能】(7) 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解すること。(イ) 世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解すること。(ウ) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。【思考力、判断力、表現力】(7) グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現すること。(イ) 地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(ウ) 冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	10月実力考查	
	11月				
	12月	(3) 世界秩序の変容と日本 (4) 現代的な諸課題の形成と展望	【知識・技能】(7) 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解すること。(イ) 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解すること。(ウ) 歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解すること。【思考力、判断力、表現力】(7) 市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(イ) 冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(ウ) 日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。	後期中間考查	
	1月			1月実力考查	
	2月				
	3月			学年末考查	
定期考查	出題方針	・授業、教科書、その他課題などから出題する。 ・100満点 50分間の試験			
	予定範囲	前期中間	A 歴史の扉 B近代化と私たち		
		前期末	C国際秩序の変化や大衆化と私たち(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い(2) 第一次世界大戦と大衆社会		
		後期中間	(3) 経済危機と第二次世界大戦(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 Dグローバル化と私たち(1) グローバル化への問い(2) 冷戦と世界経済		
観点別評価		D グローバル化と私たち(3) 世界秩序の変容と日本(4) 現代的な諸課題の形成と展望			
内容	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力が養われている。	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度であるとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み		
	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		
学習の手引き	(1) 予習…教科書を熟読し、「新歴史総合要点ノート」の穴埋めを完成させる。 (2) 授業…授業中は集中して説明事項の内容を理解し、生徒同士で内容を説明したり、まとめたりする能力を身に付ける。 (3) 復習…「新歴史総合研究ノート」を活用して、知識の整理と定着を図る。				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材（発行所）	
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ	2 1	共通	一斉	1	数学Ⅰ Standard（東京書籍） 数学Ⅱ Standard（東京書籍）	類比方式による数学Ⅰ・Ⅱ （九州数学教育会）	
目標								
数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。								
学習計画	学習時期	学習内容				学習のねらい		考查等
	4月(10)	数学Ⅰ 1章 数と式 1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式				・整式に関する用語、複雑な式の展開および因数分解を学習する。また、今後の基礎的な知識となる実数の分類を学習する。 ・方程式・不等式についての基本的な性質を理解し、絶対値記号を含む方程式、不等式を解くことができるようにする。また、2次方程式の実数解に着目し、その個数について調べることができるようにする。		第1回実力考查 （新入生テスト）
	5月(12)							
	6月(14)	2章 集合と論証 1節 集合 2節 命題と論証				・集合の表し方・記号・用語の意味を理解し、適切に使うことができる。		前期中間考查
	7月(9)	3章 2次関数 1節 2次関数とグラフ				・関数の概念を理解する。また関数のグラフを描くことによって関数の変化の具体的な様子をつかむことができるようにする。 ・因数分解の公式などを使い、2次方程式の解を求めることができる。		
	8月(6)	2節 2次方程式と2次不等式				・2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができる。また、連立不等式を解くことができる。		前期末考查
	9月(9)	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比				・三角比としての正弦・余弦・正接の意味を理解する。正弦定理・余弦定理を理解し使えるようにする。相似な図形の面積比・体積比を学習する。		
	10月(14)	2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用						
	11月(11)	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算 2節 2次方程式 3節 高次方程式 4節 式と証明				・3次式の展開と因数分解を取り扱う。 ・複素数を導入し、その範囲で方程式を扱う。 ・剰余の定理や因数定理を理解する。 ・証明の基本的な方法を学習する。		後期中間考查
	12月(12)							
	1月(10)	2章 図形と方程式 1節 点と直線				・座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。		第3回実力考查
	2月(11)	2節 円						
	3月(7)	3節 軌跡と領域						
	定期考查	出題方針	・教科書の範囲を中心に、問題集および参考書から出題する。 ・60分100点。					
		予定範囲	前期中間 数Ⅰ 1章 数と式					
			前期末 数Ⅰ 2章 集合と論証 3章 2次関数					
			後期中間 数Ⅰ 4章 図形と計量 数Ⅱ 1章 方程式・式と証明					
実力考查	出題方針	・教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割 ・新入生テストは100点、第2回、第3回実力考查は200点とする。						
	予定範囲	第1回実力 鹿児島県高等学校学力診断テスト						
		第2回実力 夏季課題・秋季課題から5割、実力問題5割（これまでに既習した内容から出題） 第3回実力 冬季課題から5割、実力問題5割（これまでに既習した内容から出題）						
観点別評価		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容		数と式、図形と計量、2次関数及び、いろいろな式、図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。			命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現して考察する力を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。	
評価基準		定期考查 提出物の提出状況（夏季・秋季課題、小テスト等）			定期考查 実力考查		授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等）	
		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する			A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	
学習の手引き		○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○計算をいわずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとることに終始せず、話をよく聞いて考え、内容の理解に努める。 ○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材（発行所）
数学	数学A 数学I	1 1	共通	一斉 習熟度	1	数学A Standard（東京書籍） 数学I Standard（東京書籍）	類比方式による数学Ⅰ・A （九州数学教育会）
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月(5)	数学A 1章 場合の数と確率			・集合の意味と記号の使い方を学習し、適切に使えるようにする。順列・組合せの意味と記号を理解し、その数を適切に求められるようにする。 ・試行・事象・確率の意味を理解する。事象の確率についての基本性質について理解し、排反事象、余事象の確率を求められるようにする。独立な試行・期待値について学習する。 ・条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解する。		第1回実力考查 （新入生テスト）
	5月(6)	1節 集合と場合の数 2節 確率とその基本性質 3節 いろいろな確率					前期中間考查
	6月(7)						
	7月(4)						
	8月(4)						前期末考查
	9月(5)	数学Ⅰ 5章 データの分析			・データの特徴や傾向をとらえる為にデータの整理をする。平均値や中央値、最頻値について理解する。 ・データの散らばり具合を偏差、分散、標準偏差を通して理解する。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する		第2回実力考查
	10月(7)	1節 データの分析 2節 データの分析の応用 3節 仮説検定の考え方					
	11月(6)						後期中間考查
	12月(7)	数学A 2章 図形の性質			・三角形の角の二等分線と比、重心・内心・外心・垂心を理解する。また、内接円、外接円との関係を理解する。円の性質を理解し、円に関するさまざまな定理を学習する。 ・基本的な作図ができるようにする。 ・中学校において学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ、三垂線の定理などを扱い、図形の性質を論理的に考察する。		第3回実力考查
	1月(5)	1節 三角形と比 2節 円の性質					
	2月(5)	3節 空間図形					
	3月(4)						学年末考查
	定期考查	出題方針	・教科書の範囲を中心に、問題集および参考書から出題する。 ・60分100点。				
予定範囲		前期中間 数A 1章 場合の数と確率					
		前期末 数A 1章 場合の数と確率					
		後期中間 数Ⅰ 5章 データの分析					
実力考查	出題方針	・教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割 ・新入生テストは100点、第2回、第3回実力考查は200点とする。					
		第1回実力 鹿児島県高等学校学力診断テスト					
		第2回実力 夏季課題・秋季課題から5割、実力問題5割（これまでに既習した内容から出題）					
	予定範囲	第3回実力 冬季課題から5割、実力問題5割（これまでに既習した内容から出題）					
観点別評価		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
内容		場合の数と確率、データの分析、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。			不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。
評価基準		定期考查 提出物の提出状況（夏季・秋季課題、小テスト等）			定期考查 実力考查		授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等）
		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する			A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する
学習の手引き		○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。 ○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。					

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材(発行所)	
理科	化学基礎	2	必修	一斉	1	化学基礎 (数研出版)	化学基礎研究ノート(博洋社)	
目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高める。 目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を培う。 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。							
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等	
	4月	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成			・探究の進め方（課題の発見・探究・解決）について学ぶ。 ・実験を行うための注意事項や基本的な器具の扱い方を学ぶ。		前期中間考查	
	5月	① 純物質と混合物			・物質の種類と性質、混合物の分離・精製方法について学ぶ。			
	6月	② 物質とその成分 ③ 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 ① 原子とその構造 ② イオン ③ 周期表			・単体と化合物、同素体、成分元素の検出法について理解を深める。 ・物質の三態と熱運動の関係について理解する。			
	7月	第3章 粒子の結合 ① イオン結合とイオン結晶			・原子の構造、電子配置について学ぶ。 ・イオンの生成過程やイオンの特徴について理解を深める。 ・元素の周期律や周期表について理解する。			
	8月	② 共有結合と分子			・イオン結合の原理や組成式の作り方、結晶について学ぶ。 ・共有結合の原理や電子式、構造式について学ぶ。			
	9月	③ 配位結合			・配位結合の原理について学ぶ。			
	10月	④ 分子間にはたらく力 ⑤ 高分子化合物 ⑥ 共有結合の結晶 ⑦ 金属結合と金属結晶 第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 ① 原子量・分子量と式量 ② 物質量 ③ 溶液の濃度 ④ 化学反応式と物質量			・分子間にはたらく引力について学ぶ。 ・分子からなる物質の実生活での利用について理解を深める。 ・共有結合の結晶について学ぶ。 ・金属結合の原理や金属結晶の性質について理解を深める。 ・化学結合の違いによる結晶の特徴について理解を深める。		前期末考查	
	11月	⑤ 溶解について学び、様々な濃度の表し方を理解する。 ⑥ 化学反応式について学ぶ。 ⑦ 化学反応における量的関係について理解を深める。 ⑧ 化学の基本法則を学び、様々な現象に当てはめることができる。						
	12月	第2章 酸と塩基の反応 ① 酸・塩基 ② 水素イオン濃度とpH ③ 中和反応と塩 ④ 中和滴定			・原子量・分子量と式量について学ぶ。 ・化学における粒子の数の取り扱い方について理解する。 ・溶解について学び、様々な濃度の表し方を理解する。 ・化学反応式について学ぶ。 ・化学反応における量的関係について理解を深める。 ・化学の基本法則を学び、様々な現象に当てはめることができる。			
	1月	第3章 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤			・酸と塩基の定義、分類法を知る。 ・水素イオン濃度とpHの関係を学ぶ。 ・中和反応のしくみや塩の性質について理解を深める。 ・中和反応の量的関係、中和滴定について理解を深める。			
	2月	③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の利用			・酸化と還元の定義について理解する。 ・酸化剤、還元剤のはたらきを学ぶ。 ・酸化還元反応における量的関係について理解を深める。 ・金属のイオン化傾向と反応性について特徴を捉える。 ・電池の原理を学び、様々な電池の仕組みを学ぶ。 ・身の周りの金属の製錬方法について理解を深める。			
	3月							
	定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題 ・100点満点50分のテスト					
		予定範囲	前期中間	イオン結合とイオン結晶まで				
			前期末	結晶の比較まで				
後期中間			化学変化における諸法則まで					
学年末	酸化剤と還元剤の反応まで							
実力考查	出題方針	・教科書の内容、副教材から約6割。応用問題を約4割出題する。・100点満点60分のテスト						
	1月実力	水素イオン濃度とpHまで						
観点別評価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	物質の成り立ちや性質、化学反応について理解し、実験・観察において目的に沿って的確に行うことができる。			物質を定性的・定量的に扱い、考察することができる。具体的な実験を基に物質の性質を理解し、的確に表現することができる。		身近な化学事象への関心を深め進んで理解しようとしている。実験・観察において目的を持って取り組もうとしている。		
	3つの観点について A 十分満足できる それぞれ次のA～C B 概ね満足できる で評価する C 努力を要する			① 授業への取組 ② 定期考查、実力考查の成績 ③ 各種課題への取組		*①～③を総合的に判断する		
学習の手引き	(1) 予習…教科書を読み、次時の学習事項を確認する。 (2) 授業…授業が勝負です。予習した学習事項を確認しながら考え、授業に集中することが大切です。授業中理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問点を家まで持ち帰らない。 (3) 復習…授業で理解したことを再認識するために、まとめノートを作成したり、研究ノートを何回も繰り返し学習することで、重要な理論・法則を思い出しながら使い、自分の理解度を深めることができます。							

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
保健体育	体育	3	共通	種目選択	1	現代高等保健体育(大修館)	アクティブスポーツ(大修館)

目標	1 スポーツについての知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わう。 2 自分にあった体力の向上を目指す。 3 スポーツを通して「公正・協力・責任・参画」に対する意欲を高め、自ら健康・安全を確保できるようにする。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		
	8月 2月	体育理論			●運動、スポーツの効果的な学び方について学習する。 ●前期と後期に分けて学習する。		
	4月 8月	体づくり運動			●仲間と積極的に交流するための手軽な運動や规律的な運動を通して、心と体は互いに影響し変化することに気づき、自分の体の調子に応じて体の調子を整えながら「体ほぐしの運動」ができるようになる。 ●ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための「体力を高める運動」の計画を立て取り組む。 ●前期と中期に学習する。		
	年間を通して複数領域から種目を選択して学習する。	選択	球技 (前期)	ソフトボール	●「ベースボール型」の球技として学習する。 ●安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開することを学ぶ。		
				ソフトテニス	●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開することを学ぶ。		
				バレーボール	●「ネット型」の球技として学習する。 ●役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を学ぶ。		
			水泳		●自分に適した泳法を身につけ、その効率を高めて泳ぐことを学ぶ。 ●記録の向上や水泳の楽しさや喜びを味わいながら泳ぐことを学ぶ。		
			球技 (後期)	バスケットボール	●「ゴール型」の球技として学習する。 ●安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することを学ぶ。		
				サッカー	●「ネット型」の球技として学習する。 ●役割に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を学ぶ。		
				バドミントン	●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開することを学ぶ。		
				卓球	●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開することを学ぶ。		
			ダンス		●創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化をつけて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることを学ぶ。 ●現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりをつけて、リズムに乗って全身で踊ることを学ぶ。		
			陸上		●おもに「競走」の長距離走を学習する。 ●目標タイムを達成するペースを自分の技能・体力に合わせて設定し、自分に適したペースを維持して走ることを学ぶ。		
観点別評価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。			生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、お互い協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康と安全を確保している。	
評価基準	実技テスト			実技テスト 各種スコアカード・グループ日誌		授業への参加・取り組み状況 各種スコアカード・グループ日誌	
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する			A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	
学習の手引き	・教科書に目を通して、選択種目のルールや練習方法等を確認する。 ・体育は身体を動かすことが大切です。積極的に身体を動かし、分からないことはその場で質問する。						

- 9 -

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
保健体育	保健	1	共通	一斉	1	現代高等保健体育(大修館)	現代保健ノート(大修館)
目標 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。							
学習計画		学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	○現代社会と健康			健康の定義について理解している。		前期末考查
	5月	1 健康の考え方と成り立ち			健康にかかわる内的・外的要因を理解している。		
	6月	2 私たちの健康のすがた			生活習慣病について理解し、説明できる。		
		3 生活習慣病の予防と回復			がんの原因や対策について理解している。		
	7月	4 がんの原因と予防			がんとともに生きる社会づくりについて理解している。		
		5 がんの治療と回復			健康から見た運動の意義について理解している。		
	8月	6 運動と健康			健康的な食生活の意義について理解している。		
		7 食事と健康					
	9月	8 休養睡眠と健康			適切な休養の取り方について理解している。		
		9 喫煙と健康			喫煙に対する現状と対策について理解している。		
	10月	10 飲酒と健康			飲酒に対する現状と対策について理解している。		
		11 薬物乱用と健康			薬物乱用に対する現状と対策について理解している。		
	11月	12 精神疾患の特徴			精神疾患の現代の課題について理解している。		
		13 精神疾患の予防			精神疾患の予防について理解している。		
12月	14 精神疾患からの回復			精神疾患の実態や回復の知識をもっている。			
	15 現代の感染症			現代の感染症を理解している。			
	1月	16 感染症の予防			感染症の予防について理解している。		学年末考查
		17 性感染症・エイズとその予防			性感染症・エイズについて理解している。		
		18 健康に関する意志決定・行動選択			意思決定・行動選択の重要性について理解している。		
	19 健康に関する環境づくり			健康に関する環境づくりを理解している。			
	2月	○安全な社会環境			交通事故の特徴や関係する要因について理解し、具体例をあげて説明できる。		
		1 事故の現状と発生要因			交通事故を起こした場合の責任や補償について理解している。		
2 安全な社会の形成			安全な交通社会のための方策や車両の安全装置について理解している。				
3月	3 交通における安全			応急手当の意義や手順について理解している。			
	4 応急手当の意義とその基本			心肺蘇生法の原理や手順について理解している。			
定期考查	出題方針	教科書の内容を中心に、現代保健ノート、教材プリントからも出題する。					
	予定範囲	前期末	教科書「p.6健康の考え方と成り立ち」～「p.31飲酒と健康」の範囲内で記述回答方式で出題する。				
		学年末	教科書「p.32薬物乱用と健康」～「p.72心肺蘇生法」の範囲内で記述回答方式で出題する。				
実力考查	出題方針						
	予定範囲	4月実力					
		5月実力					
		10月実力					
		1月実力					
観点別評価		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
内容		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。			健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価基準		定期考查 保健課題(保健ノート)			定期考查 保健課題(保健ノート)		ペアワークなどの取組 保健課題(保健ノート) 個人・グループでの発表
		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する			A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		
学習の手引き		(1) 予習・・・教科書・保健ノートに目を通して、その日の学習事項・内容を確認する。 (2) 授業・・・先生の説明する教科単元の内容を理解し実践することが大切です。授業中理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家まで持ち帰らない。 (3) 復習・・・授業で理解したことを再認識するのに効率の良い学習法は、保健ノート学習です。自分の理解度を知ることができます。					

- 10 -

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	音楽Ⅰ	2	選択	一斉	1年	高校生の音楽Ⅰ(教育芸術社)	適宜プリント等を配布

目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい	備考		
	前期	4～5月	のびやかに声をだそう 自分の声を見つけよう 「校歌」「たいせつ」 「翼をください」	・本校の校歌や愛好歌の意味を理解して歌う。 ・中学校で身に付けた発声法を生かして曲に合った表現を方法を考えて歌う。	・実技や作品などの結果だけでなく、そこに至る過程も見取り、「思考力・判断力・表現力」や「主体的に取り組む態度」も評価します。		
		5～7月	ボディー・パーカッションを楽しもう 「クラッピングカルテット1番」	・リズムアンサンブルを通して、楽譜を読む力を身につける。 ・楽曲の特徴を生かして表現する。			
		7～9月	日本の伝統音楽を鑑賞しよう 能「高砂」 歌舞伎「京鹿子娘道成寺」	・能や歌舞伎の成り立ちや特徴について学習する。 ・鑑賞して感じたことを音楽の見方・考え方を働かせながら文や言葉にして伝える。			
	後期	10～11月	イメージを広げて音楽をつくろう	・旋律と和音、低音の働きを理解し、旋律に合った組み合わせを考える。 ・表現したいイメージに合わせて、速度や楽器の種類などを選択して曲をアレンジする。(リコーダー演奏を含む)			
		11月	オーケストラの作品を鑑賞しよう 「交響曲第9番第4楽章」 「交響詩 魔法使いの弟子」	・様々な楽器の音色や奏法を知り、オーケストラの響きを感じ取る。 ・音楽を形づくる諸要素と関連付けながら音楽の変化に気付き、感じたことを自分の言葉で表現する。			
		12～2月	ヴァイオリンを演奏しよう 「きらきら星」	・ヴァイオリンの仕組みや歴史などを知り、実技活動を通して、奏法や音色の特徴を学習する。			
		2～3月	表現を工夫して合唱しよう 「ふるさと」 「大地讃頌」	・独唱や重唱、合唱など形態に応じた声の出し方を知り、楽曲に合った表現方法を考えて曲を作り上げる。			
	定期考查	出題方針	題材の内容に応じて、知識・技能の定着を見るために実技や筆記試験を行います。(授業内で実施)				
		予定範囲	前期	歌唱やアンサンブルの実技			
後期			作曲 器楽、歌唱の実技				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
目標	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することができる。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む。			
評価の観点及びその趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
評価基準	実技テスト、ワークシート等		実技テスト、ワークシート等	実技活動、ワークシート等			
	実技やワークシートの記入など、評価の対象となるものについて、題材毎に三観点における評価基準を3つ程度(A十分満足できる・B概ね満足できる・C努力を要する)設定し、内容に応じて文言を詳しく提示します。						
学習の手引き	基本的に2時間を通して諸活動を行います。音楽Ⅰでは、音楽の見方・考え方を働かせながら様々な音楽を通して学習していきます。						

- 11 -

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	美術Ⅰ	2	共通	一斉	1	高校生の美術1(日文)	適宜プリント等を配付

目標		美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。					
学習計画	学習時期		学習内容		学習のねらい		備考
	前期	4月	○オリエンテーション ○自己紹介ARTカード		美術学習の楽しみ方と心構え 自分を表現する方法を考える。		考査等は実施 しませんが、 授業の中で取 り組む態度、 制作のプロセ ス、作品等を 適宜評価しま す。
		5月	○絵画表現：画家の追憶 ・西洋・日本美術史 ・鑑賞・リサーチ学習 ・油彩模写		油彩画の時代ごとの流れを理解し、原画や画家について事 前に学習する。 名画を元に作者の制作の工夫を学ぶ。		
		6月	①作品の選択とデッサン ②油絵の具の扱い方 ③造形要素の認識 ④マチエールの工夫 ⑤全体感と細部表現 ⑥仕上げ		作品の構図について理解を深める。 油絵の基本的な使用法を理解する。 原画の持つ形体と色彩に近づく。 原画の表現技法を探る。 作品・作家を追体験する。 作品の完成		
		7月	○私のマーク		デザインの目的・造形・働きを考える。 アクリル絵具の特徴と使用方法		
		8月	○世界でたった一冊の絵本		自分の思いを形にする。 独創的な発想とテーマ設定		
		9月	・発想と表現 ・イメージの視覚化 ・ストーリー		単純化を工夫する。 配色を工夫する。 自他作品の良さに気づく。		
	後期	10月	・作品鑑賞・発表会				
		11月	○光のアート		ステンドグラスのように光そのものを作品の一部として表 現する。 幅広く柔軟な思考、発想ができる。		
		12月					
		1月	○現実の彼方へ ・無意識の世界からの発想法		シュルレアリズムについて理解し、現代に与えている意義 を考える。 想像上のイメージをもとに、自由で個性的な表現ができ る。		
		2月	・意外な物の組み合わせ ・モダンテクニック				
		3月	○鑑賞		多様な美術作品についての理解を深める。		
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容		造形的な見方・考え方を働かせて、造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。また意図に応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能を身に付けている。		造形的な見方・考え方を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。また美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。		造形的な見方・考え方を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	
評価の観点		・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む、自他のよさを認め合いながら、創造の喜びを味わおうとしている。	
評価基準		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	
		①授業への取り組み(出席状況、授業態度、活動への参加姿勢) ②授業作品の内容(制作意図の理解、感性の表現、創意工夫) ③課題などの提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。					
学習の手引き		①美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持つ。 ②意欲的、主体的に活動し、創作活動を楽しむ。 ③基本的な学習マナー(準備と片づけ等)を身につける。					

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材（発行所）
芸術	書道Ⅰ	2	共通	一斉	1年	書道Ⅰ（教育出版）	適宜プリント等を配布

目標		書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。						
学習計画	学習時期		学習内容		学習のねらい		備考	
	前期	4月	○オリエンテーション ・用具・用材 ・姿勢・執筆		・執筆法・用筆法や用具・用材について知り、書道の学習における基本的な事項を理解する。			
		5月	○漢字の書 ・書体の変遷		・漢字の成り立ちを理解する ・古典を鑑賞し、作者や時代背景を理解する。			
		6月	①楷書・行書の学習 ・郷土の先人の書		・臨書学習を通し、さまざまな表現を工夫する。			
		7月 8月 9月	○篆刻の学習 ・篆書の学習		・篆書の特徴を理解する。 ・自書自刻の印を作成する。			
	後期	10月	○臨書から創作へ ・漢字の書の制作・鑑賞		・学習した古典に基づき、漢字作品の制作をする。 ・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。		・ 考査等は実施しませんが授業の中で取り組む態度、制作のプロセス、作品等を評価します。 ・ 適宜、作品展へ出品します。	
		11月	○漢字仮名交じりの書の学習 ・意図に応じた表現		・漢字と仮名の調和を考える。 ・題材と自己の表現の工夫をする。			
		12月	・名筆に学ぶ表現の工夫 ・表現と鑑賞		・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。			
		1月	○生活の中の書		・実用書の書き方を学ぶ			
	2月 3月	○仮名の書の学習 ・仮名の成立と発達 ・平仮名・変体仮名・連綿 ・古筆の鑑賞・臨書		・仮名の成立について学ぶ ・仮名の基本的筆遣いを学ぶ。 ・古筆の鑑賞・臨書を通し、繊細な表現ができる。				
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、表現方法、形式、書表現の多様性を理解している。また、書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現させるための基本的な技能を見につけている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、書のよさや美しさを感じ自らの意図に基づいて表現を工夫している。また、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わっている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、書の創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き・書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとしている。		
評価の観点		・用具用材の特徴と表現効果の関わりを理解している。 ・古典を理解し、その美しさや良さを味わい、様々な表現形式について理解している。 ・意図に基づいて作品を効果的に表現できる技法を身に付けている。		・古典や書作品から、そのよさを感じ、書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。		・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。		
評価基準		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		
		①授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加姿勢） ②授業作品の内容 ③ワークシートなどの記入・提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。						
学習の手引き		1. 基本的な事項についての学習では、教科書を中心にその理解と把握に努める。 2. 表現の学習では、自ら積極的な姿勢で臨み、表現技法の習得に努める。 3. 鑑賞の学習では、作品を直観的かつ分析的に捉えるように心がけ、書美の追求に努める。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	英語 コミュ I	3	共通	一斉	1	Heartening English Communication I (桐原書店)	英単語ターゲット1900 (旺文社)

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい	考查等
	4月	Lesson 1 Bringing Out the Best in Himself		英語を学習しながらNBA選手になる夢を実現した男子学生物語文を読み、スポーツへの理解と周囲への感謝の気持ちを考える。 現在形・過去形・進行形、未来表現	前期中間考查
	5月	Lesson 2 Hold on, Anzu!		警察犬となったトイプードルの英文を読み、動物への理解を深めると同時に勇気と感動を与える仕事について考える。 現在(過去)完了形、現在(過去)完了進行形	
	6月	Lesson 3 We can Make a Difference		気候変動の問題を改善するために世界の若者が起こしている行動についての説明文を読み環境問題への理解を深める。 助動詞、助動詞の過去形	
	7月	Lesson 4		ポイ捨て問題をなくすための効果的な方法に関する論文を読んで心理学への理解を深める。 受動態、前置詞	前期末考查
	8月	Creative Problem Solving			
	9月	Lesson 5 Canned Bread to Feed theWorld		食料廃棄問題の解決と饑餓地域への支援の両方を実現するためのプロジェクトについての物語文を読んで、食料問題への理解を深める。 不定詞、SVO+to do、知覚(使役)動詞+O+動詞の原形	10月実力考查
	10月	Lesson 6 Could We Have a Real Jurassic Park		恐竜を現代の世界に再生させるの説明文を読んで、科学や生物に関する理解を深める。 動名詞、SVC(分詞)	後期中間考查
	11月	Lesson 7 Behind the Price Tag		衣料製造業界の実態とその問題に関する説明文を読み、持続可能な社会のあり方と経済に関する理解を深める。 SVOC(分詞)、分詞構文	1月実力考查
	12月	Lesson 8 The World's Winter Festivals		世界の冬祭りには意外な共通性があるという説明文を読み、多文化への理解を深める。 比較、従属接続詞(because, when, if)	
	1月	Lesson 9 Talking Trees		植物が互いにコミュニケーションを取り、助け合っている事実があるという説明文を読み、生物に関する理解を深める。 関係代名詞(副詞)の制限用法と非制限用法	
	2月 3月	Lesson 10 Capturing the Reality of the World		フォトジャーナリストの安田葉津紀氏に関する物語文を読み、仕事に対する使命感や生き方について考える。 仮定法過去(過去完了)	学年末考查
定期考查	出題方針	教科書から出題する。			
	予定範囲	前期中間	Heartening English Communication I (L.1,2)		
		前期末	Heartening English Communication I (L.3,4,5)		
		後期中間	Heartening English Communication I (L.6,7)		
学年末		Heartening English Communication I (L.8,9,10)			
実力考查	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出題する。(200満点)			
	予定範囲	10月実力	基本文例600、英単語ターゲット1900、休日課題等		
		1月実力	基本文例600、英単語ターゲット1900、休日課題等		
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価基準	定期考查、単元テスト、パフォーマンステスト等		定期考查、単元テスト、パフォーマンステスト等		パフォーマンステスト、小テスト等
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する				
学習の手引き	予習 授業 復習	新出単語・熟語の意味調べ、重要構文や文法事項の確認、本文の内容把握(和訳を含む) 予習内容の確認、音読練習、重要構文や文法事項の確認、本文読解 授業での学習内容の確認、語彙・構文等の定着、音読練習			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	論理・表現 I	2	共通	一斉	1	be English Logic and Expression I Smart (いいずな書店)	英単語ターゲット1900 (旺文社)

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい	考查等
	4月	Lesson 1 Meeting People Lesson 2 Holidays and Weekends		・自己紹介について。現在形・現在進行形 ・休日や週末について。過去形・過去進行形	前期中間考查
	5月	Lesson 3 Making Plans Lesson 4 Travel		・予定について。未来形・未来進行形 ・休日や週末について。現在完了形	
	6月	Lesson 5 Study and Activities Lesson 6 Food		・学習・課外活動について。過去完了形 ・食べ物について。助動詞①	
	7月	Lesson 7 School Life		・学校生活について。義務・確信等を表す助動詞②	前期末考查
	8月	Lesson 8 Daily Life		・日常生活について。助動詞③	
	9月	Lesson 9 Transportation Issues Lesson 10 The Future Lesson 11 Staying Healthy		・交通問題について。受動態 ・将来の夢や目標について。不定詞① ・健康について。不定詞②	10月実力考查
	10月	Lesson 12 New Products Lesson 13 Hobbies and Interests Lesson 14 The World of Nature		・新しい製品について。不定詞③ ・趣味・関心について。動名詞 ・自然について。分詞①	
	11月	Lesson 15 Trouble and Accidents		・事故等について。分詞②	後期中間考查
	12月	Lesson 16 Technology and Invention		・技術・発明について。関係代名詞①	
	1月	Lesson 17 Achievements Lesson 18 Cities and Towns Lesson 19 Living Environment		・達成したことについて。関係代名詞② ・都市・町について。関係副詞 ・生活環境について。比較①	1月実力考查
	2月	Lesson 20 Social Problems Lesson 21 Making a Wish		・社会問題について。比較② ・願い事について。仮定法	学年末考查
	3月	Lesson 22 Cross-cultural Communication Lesson 23 Giving Opinions		・異文化について。接続詞 ・既習事項を使って自分の意見を言う。That節	
定期考查	出題方針	教科書から出題する。			
	予定範囲	前期中間	be English Logic and Expression I Smart (L.1,2,3,4)		
		前期末	be English Logic and Expression I Smart (L.5,6,7,8,9,10)		
		後期中間	be English Logic and Expression I Smart (L.11,12,13,14,15,16)		
		学年末	be English Logic and Expression I Smart (L.17,18,19,20)		
実力考查	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出题する。(200満点)			
	予定範囲	10月実力	基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題		
		1月実力	基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題		
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
評価基準	定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等		定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等	パフォーマンステスト, 小テスト等	
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	
学習の手引き	予習 新出単語・熟語の意味調べ、重要構文や文法事項の確認、本文の内容把握(和訳を含む) 授業 予習内容の確認、音読練習、重要構文や文法事項の確認、本文読解 復習 授業での学習内容の確認、語彙・構文等の定着、音読練習				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
家庭	家庭基礎	2	共通	一斉	1年	図説家庭基礎 (実教出版)	2025生活学Navi 資料+成分表 (実教出版)

目 標		人の一生と家族・福祉, 衣食住, 消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し, 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。			
		学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
学習計画	4月	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。	被服作品	
	4～5月	自分らしい生き方と家族	・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ, 職業選択も見通す。		
	6～7月	衣生活をつくる	・衣服の機能や衣服材料の性能などについて理解を深めることにより, 衣服を適切に選択し管理できるよ ・基礎縫いが出来るようになる。		
	8～9月	ホームプロジェクト	・ホームプロジェクトを実施し, 発表する。	前期期末考查	
	10～11月	食生活をつくる	・健康で安全な食生活を営むために必要な栄養・食品・調理・食品衛生などについて理解する。 ・調理に関しての基礎的な知識・技術を身につける。 ・食の安全について理解し, 問題意識を持つ。	調理実習(和) 調理実習(洋) 調理実習(中)	
	11～12月	子どもとかかわる	・子どもの発達・保育・福祉を通して健全な発達を支える親や社会の役割を知るとともに, 保育への関心	学年末考查	
	12～2月	高齢者とかかわる 社会とかかわる	・高齢者の特徴と生活を理解し, 高齢者を支える社会のしくみやあり方について考える。		
	2月	住生活をつくる	・住居の機能を理解し, 健康で安全な住生活やライフスタイルに適した住まいの条件を考える。		
	3月	消費行動を考える 経済的に自立する	・様々な消費者問題から, 賢い消費者としてどう行動すべきか考える。 ・自分の目指すライフスタイルを考え, 高校卒業後の生活設計を立てる。		
定期考查	出題方針	教科書, プリント, 実習内容を中心に出题			
	予定範囲	前期中間	なし		
		前期期末 後期中間 学年末	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ, 自分らしい生き方と家族, 衣生活をつくる なし 食生活をつくる, 子どもとかかわる, 高齢者とかかわる, 社会とかかわる, 住生活をつくる		
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容		生活を科学的に理解し, 自立した生活者に必要な知識・技術を身につけている。		家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し, その解決のために生活を科学的に探求し, 生涯を見通して生活を創造している。	自立した生活者に必要な知識・技術を身に付け, 地域社会に参画し, 共に支え合う社会の実現に向けて, 家庭や地域の生活を創造し, 主体的に実践しようとしている。
評価基準		定期考查 2割 実技1割		定期考查 2割 課題1割 実技1割	定期考查 2割 課題1割 実技1割
		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する
評 価	観点	①知識・技能…人の一生・生活全般に関する基礎的・基本的な知識を理解し, 技能を身につけているか。 ②思・判・表…自分の人生やともに生きる人々との生活がよりよいものとなるために思考し, 表現できるか。 ③主体的に学習に取り組む態度…家庭や地域の生活を創造し, 主体的に実践しようとしている。			
	方法	①授業への取り組み(出席状況・授業態度・学習活動への参加状況) ②課題, 作品などの提出状況 ③考查, 実技試験の成績 ①～③を総合的に評価します。			
学 習 の 手 引 き		高校生として自立を目指して家族・食事・住居・消費行動など様々な側面から生活を観察し, 問題解決能力を身につけられるよう意欲的に授業に取り組ましよう。また, 周囲と協力しながら熱心の実習に取り組ましよう。しかし, 授業はきっかけに過ぎません。真の力をつけるためには, 新聞やニュースにも目を通し, これからの時代をどう生き抜くか考えていかなければなりません。現在の家庭生活を改善するとともに, 将来よりよい家庭生活を築けるようにしましょう。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
情報	情報I	2	全	一斉	1	高等学校情報I(数研出版)	情報Iサポートノート (数研出版)

目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う活動を通して、問題解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するするための資質・能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい			考查等
	4月 5月	第1編 情報社会の問題解決		①情報社会の仕組みや現状、問題点を把握し、関連する情報モラル、法規等について理解することができる。 ②情報社会での個人の役割や責任に対する科学的考察や、ブレインストーミングの活用等によって、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用や考察をすることができる。 ③情報モラルに配慮しながら情報社会に主体的に参加し、望ましい情報社会の構築に寄与することができる。			前期中間考查
	6月 7月 8月	第2編 コミュニケーションと情報デザイン		①数や文字、画像や音声などのデジタル表現とその仕組みについて理解する。 ②目的や相手を意識した情報デザインを考え、コンテンツの設計や製作、評価等を行うことができる。 ③コミュニケーションの目的を考え、情報や情報技術を活用した効果的な情報デザインに取り組み、それらを通して、自らの生活や学習に生かすことができる。			前期末考查
	9月 10月 11月	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 (数Ⅰデータの分析との関連)		①質的、量的データ、尺度の違いによるデータの分類を確認した上で、分析の手順や方法について理解できる。 ②計算やグラフの活用によって、データ分析や結果を適切に表現し、評価と改善ができる。 ③仮説検定やテキストマイニングは粘り強い試行錯誤が重要と気づき、継続的な改善を行うことができる。			10月実力考查 後期中間考查
	12月 1月 2月 3月	第3編 コンピュータとプログラミング * プログラミング実習		①アルゴリズム表現、プログラム製作などの知識や技能を身につけることができる。 ②プログラミングや、モデル化とシミュレーションにより目的に応じた問題解決の方法を考えることができる。 ③身近な問題をプログラムや、シミュレーションの結果から評価、改善を行う態度を身につけることができる。			1月実力考查 学年末考查
定期考查	出題方針	教科書の範囲を中心に、演習や学習プリントを範囲として出題する。(100点満点:50分の予定)					
	予定範囲	前期中間	第1編 情報社会の問題解決				
		前期末	第2編 コミュニケーションと情報デザイン				
		後期中間	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用				
		学年末	第3編 コンピュータとプログラミング (プログラミングも筆記による出題あり)				
実力考查	出題方針	長期休業中の課題の取組具合の確認と、共通テストのような実力問題・応用問題への対処能力を問う(100点満点:60分の予定)					
	予定範囲	10月実力	課題範囲として夏・秋休みの課題から出題。また前期履修範囲における実力問題、応用問題から出題。				
		1月実力	課題範囲として冬休みの課題から出題。また12月までの履修範囲における実力問題、応用問題から出題。				
			実力問題、応用問題は、情報と関連性のある検定や試験などの過去問題も参考にしながら出題予定				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用に理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人とのかわりについて理解している。 (単元ごとには、学習のねらいの①)		事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発展と解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 (単元ごとには、学習のねらいの②)		情報社会とのかかわりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し、改善しようとしている。 (単元ごとには、学習のねらいの③)		
評価基準	定期考查や各種課題・授業における製作物をもとに上記内容を達成したか。		定期考查や各種課題(製作物)をもとに上記内容を達成したか。		課題の取組・提出状況やグループ活動をもとに上記内容を達成したか。		
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		
学習の手引き	中学校では技術・家庭の一つの分野であった範囲が高等学校では必修科目となっています。高度な情報社会を生きるみなさんにとって、日常の生活で必要になる内容です。 技術の習得、知識の習得だけが目標ではありません。どう情報を集めて、選択し、分析するか、それにより課題を解決するかという、「情報の活用能力」が大きな目標の一つです。そのことを頭に入れて授業に参加し、課題に取り組んでください。また、情報社会は目まぐるしく変化します。新しい情報を知るために、教科書だけでなくニュースなども確認しましょう。 今までにない教科なので、戸惑うかもしれません。わからないことは小さなことでも遠慮なく質問しましょう。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
学校設定科目	探究基礎	2	全	一斉	1	—	探究のいろはのプリント (鹿児島中央高等学校)

目標	身近な事象に関心や探究心を高め、科学的な視点から疑問や課題を発見できる能力を身につける。理科(物理・化学・生物・地学)を行うために必要な基礎的な知識・技能の修得に努めるとともに、目的意識をもって観察・実験などを行うことで、課題解決につながる情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、状況を踏まえて発信・伝達できる能力を育成する。				
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい		考查等
	4月	探究活動について ・探究活動の目的・スケジュール ・ICT機器の使い方	・探究活動の意味を理解し、これからの活動に必要な基本的な知識・技術を身につける。 ・グーグルクラスルームの設定を行い、作成するファイルの共有の方法を学ぶ。		ポスター提出 プレゼン発表
	5～6月	発表の方法 ・自己紹介ポスターの作成・発表	・自己紹介ポスターを作成する中で、プレゼンテーションソフトの使い方や発表の仕方などを学ぶ。		
	7～9月	現代の課題を考える ・科学的な考え方 ・仮説とテーマの設定 ・クラス内プレゼン発表会	・演繹法や帰納法を用いて、科学的・論理的に物事を捉える能力を身につける。 ・現代社会の問題点を発見し、その解決法を考察する。 ・「課題発見」、「仮説設定」、「調査」、「考察」、「まとめ・発表」という研究の流れを身につける。		スライド提出 プレゼン発表
	10～12月	データの処理 ・表計算ソフトの使い方 ・データ分析 ・アンケートの取り方	・表計算ソフトを使って、研究で得られたデータの数値処理を行う能力を身につける。 ・t検定、カイ二乗検定、回帰分析を理解し、データの活用方法を学ぶ。 ・アンケートの採り方やデータの解釈法を身につける。		レポート提出
	1月～3月	5つの実験	・物・化・生・地・環の5分野の実験を行い、「実験計画」、「実験」、「考察・まとめ」という研究の流れを身につける。		レポート提出
定期考查	出題方針	実施せず			
実力考查	出題方針	実施せず			
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・課題研究に必要な科学的な知識や技能を身につける。		・科学的な視点から疑問や課題を発見できる能力を身につける。 ・課題研究に必要な情報を主体的に収集・分析・考察し、発信・伝達する能力を身につける。		・目的意識を持って観察・実験を行う。 ・周りとコミュニケーションを取りながら考察を深めようとする。
	3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	① 授業への取組 ② 課題へのプレゼン発表 ③ 実験などのレポート提出 * ①～③を総合的に判断する	
学習の手引き	3年間の科学的な探究活動(探究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)の基礎になる科目です。2年生から始まる理科(物理・化学・生物・地学)の基本的な「知識」と「技術」を身につけておく必要があります。他の人に頼らず自分の力で学習活動が進められる力をつけましょう。物事に積極的に取り組む姿勢が評価される科目であると考えてください。				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
学校設定科目	探究Ⅰ	1	全	一斉	1	—	探究のいろはのプリント (鹿児島中央高等学校)

目 標	「探究のいろは」を用いて課題研究の基礎を学び、課題決定から発表まで問題解決のプロセスを学ぶ。前期には「学問探究」に係るポスターセッションにより研究発表を行う。後期には課題研究テーマおよび研究班の設定を行い、クラスや文理の枠を超えて探究活動を行う。				
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい		考查等
	4～6	課題研究に対する知識の獲得 ・科学講演会 ・論文の構成 ・学問探究	・論文内での「序論」「本論」「まとめ」について理解する中で、探究活動において研究の目的、先行研究の必要性、研究の手法、考察、今後の展望、参考文献を意識しながら活動を行うことの必要性を学ぶ。		レポート提出 レポート提出
	7～9月	課題研究テーマ設定 ・エネルギー講演会 ・学年交流会（2・3年） ・最終報告会の見学 ・探究班の班編成	・学年交流会を通して探究テーマの設定方法、最終報告会を通して探究の流れや発表を聞く中で、自分たちが何を題材として探究を行うかを考える。また課題研究発表を聞く中で、プレゼンテーションに必要なスキルを学ぶ。		
	10～11月	課題探究テーマの設定 ・1年生合同オリエンテーション ・探究テーマの設定 ・先行研究の調査 ・探究計画書の作成	・合同オリエンテーションに参加し、課題研究テーマ設定の流れを理解する。 ・探究のテーマを設定し、先行研究を調査する中で、探究活動の目的、研究の手法を計画し、探究計画書を作成する中で、研究手順・研究内容を具現化する。		レポート提出 計画書提出
	12～1月	探究テーマ審査会に向けての準備 ・審査会用スライドの作成 ・探究テーマ審査会	・専門機関（大学など）を審査員に、自分たちが行う探究計画を発表し、アドバイスを頂く。		スライド提出 発表
	2～3月	探究活動に向けての準備 ・探究計画書の修正 ・予算書の作成	・探究テーマ審査会でのアドバイスをもとに、探究計画書を修正し、予算書とともに提出する。		計画書提出 予算書提出
定期考查	出題方針	実施せず			
実力考查	出題方針	実施せず			
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・身近な事象に関心や探究心を高め、科学的な視点から疑問や課題を主体的に発見できる能力を身に付ける。		・課題解決につながる情報を主体的に収集し、協働的な活動を進めつつ判断・表現・創造する能力を身に付ける。		・グループ内での多様な考えを受容・共感し、まとめた内容を効果的に発信・伝達しようとする。
	3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	① 授業への取組 ② 課題へのプレゼン発表 ③ 探究計画書・予算書の作成	* ①～③を総合的に判断する
学習の手引き	3年間の探究活動(探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の基礎になる教科です。2年生から始まる「課題研究」の基本的な「知識」と「技術」を身に付けておく必要があります。他の人に頼らず自分の力で研究が進められる力をつけましょう。物事に積極的に取り組む姿勢が評価される科目であると考えてください。				